

石原農林水産事務次官のご視察

平成17年2月25日（金）に石原葵農林水産事務次官が動物衛生研究所を視察された。今回は筑波事務所農林ホールで行われた農林研究団地職員への講話の後、動物衛生研究所を訪問されたものである。

随行者は宮崎農林水産技術会議事務局研究総務官、大同農林水産技術会議事務局技術情報室長、大栗農林水産技術会議事務局筑波事務所長であった。対応者は清水所長、谷口企画調整部長、齋藤総務部長、吉原総合研究防疫官、志村疫学研究部長、成田生産病研究部長、廣田安全性研究部長、品川プリオン病研究センター長、福所生物学的製剤センター長、および八木研究企画科長であった。さらに、高病原性鳥インフルエンザ研究手法については、真瀬感染病研究部病原ウイルス研究室主任研究員が、またBSE研究の実際については、岡田病態解明研究チーム長が対応した。

事務次官は昨年同時期に竣工前の高度研究施設を視察されておられるが、今回は本格稼働した同施設をご覧頂いた。次官到着後、高度研究施設会議室において動物衛生研究所を代表し清水所長が歓迎挨拶を行った後、動物衛生研究所の沿革、研究、人員構成について概要を紹介した。次いで谷口部長が、高病原性鳥インフルエンザ研究についてその発生から、現在までに至る研究の概要について説明した。その後、品川センター長がプリオン病研究センターの研究概要について説明した。またロビーに仮設展示された機器を用いて、チーム長・主任研究員からBSE発病牛の病理組織標本



説明を受ける石原農林水産事務次官（右）

の説明や、赤血球凝集反応等による高病原性鳥インフルエンザの診断手法について説明がなされた。最後に監視室において監視モニター越しではあったが、管理区域内で飼育されているプリオン感染牛を観察された。次官をはじめ訪問された方々も、鳥インフルエンザの診断方法についてご質問されるなど実際の標本や検体をご覧になり、強くご関心を持たれた様子だった。

最後に、当日直接対応した関係者をはじめ、次官の訪問準備のため職員の皆様に多大な協力を頂いた。この場をお借りして感謝申し上げます。

（研究企画科長）